

世界は少しずつ良くなっている ～投資を行なう際に、覚えておきたいこと～

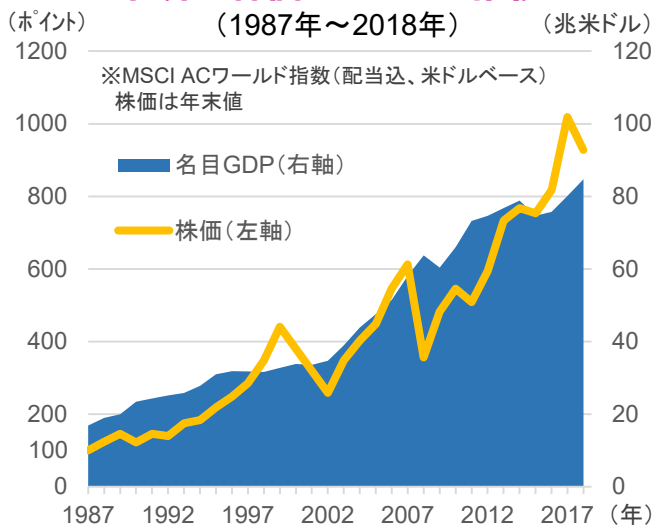
米中間の貿易摩擦などを背景に、世界経済の減速懸念が意識され、足元で世界の金融市場の変動性が高まる場面がみられます。

世界経済の先行きが目先の懸念材料となっていますが、長期の視点でこれまでの経済成長をみると、1987年から2018年までの約30年間で、アジア通貨危機やリーマン・ショックなどを経験しながらも、世界のGDP(名目、米ドルベース)は、約5倍に拡大しました(左下グラフ)。さらに、各国の一人当たりGDPと平均寿命の関係をみると、経済の拡大とともに一人当たりGDPも増加し、1987年に64歳だった平均寿命は、2017年に73歳までのびています(右下グラフの127カ国の平均)。これは、所得環境の改善が衛生環境や栄養状況の改善をもたらし、予防接種の普及や医療の発展なども相まって、平均寿命ののびにつながったと考えられます。ハンス・ロスリング氏などの著作で、話題となった著書「ファクトフルネス」では、データやファクト(事実)に基づき世界を読み解く姿勢や習慣を提唱しています。それによると、人間は良いニュースより悪いニュースに反応するため、悪いニュースの方が広まりやすいものの、実際の物事はゆっくり動いており、世界は少しずつ良くなっているとしています。

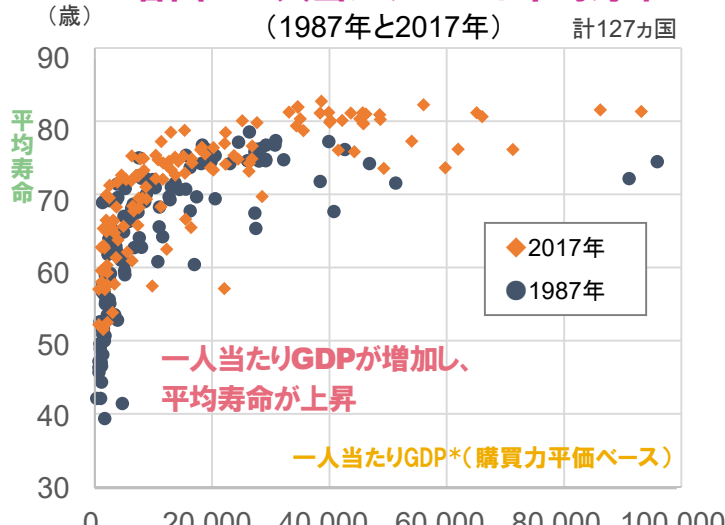
世界経済が成長し、世界の人々の生活が向上するなか、その間、経済の温度計である株価も上昇しており、世界株式は、1987年末から2018年末までの約30年間で、約9倍になりました。もちろん大きく下落する年もあり、リーマン・ショックのあった2008年は年間で約40%の下落となりましたが、それで世界株式の上昇が止まったわけではなく、約30年間では年平均約7%の上昇となりました。

人間(投資家)は悪いニュースに反応し、目先の先行き懸念に意識が向かいがちになるため、短期的に資産価格が大きく変動することがあります。しかし、長期的に世界経済は、着実に成長しているというファクト(事実)を覚えておけば、短期の価格変動があっても投資を継続する動機になり、世界経済の成長の享受につながると期待されます。

世界の株価※とGDPの推移



各国の一人当たりGDPと平均寿命



(IMF、世界銀行など信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成) * 上記は10万米ドルまでの国を表示 (米ドル)
※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。